

第13回国際ボランティア ワークキャンプ in ASO

可能性～創ろうみんなの未来～

報告書



2018年8月11日(土)～13日(月)

国立阿蘇青少年交流の家

Contents

- 02 目的・概要／概略

- 03 未来職道協力者／スケジュール

- 04 開会式／基調講演／オープニングセッション
第1分科会「児童労働 -Child labor-」

- 05 第2分科会「情報リテラシー」
第3分科会「自己表現」

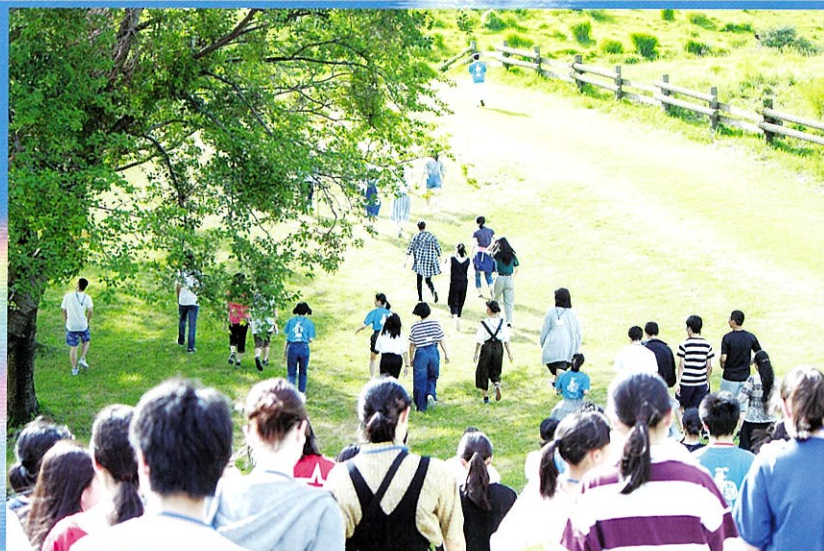
- 06 第4分科会「社会福祉（障がい）」
第5分科会「平和」

- 07 第6分科会「多分化共生」
第7分科会「減災」

- 08 全体交流会
未来職道

- 09 全体報告会
閉会式

- 10 お礼のメッセージ
- 11 アンケート報告



目的・概要

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営する国際ボランティアワークキャンプ（以下、ボラキャンと記述）を、二泊三日の宿泊型で計画・実施しました。

本ワークキャンプへは119名の高校生、14名の留学生、そして5名の日本人大学生がサポーターとして参加しました。分科会活動等様々な活動とおし交流、お互いを理解、「思い」を共有し、日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

第13回目を迎える今年度の国際ボランティアワークキャンプボラキャンでは、「可能性～創ろう みんなの未来～」をテーマとして掲げました。たくさんの高校生（＝可能性）が集まり、様々な交流や活動をおして互いにつながり、友情の輪を広げよう！そして、素晴らしい、夢のある未来を共に手を取り創り上げていこう！という思いを今回のテーマに込めて実施いたしました。

概略

- 実施年月日
2018年8月11日(土)～13日(月)2泊3日
- 実施会場
国立阿蘇青少年交流の家
〒869-2692
熊本県阿蘇市一の宮町宮地6029-1
- 参加者
133名
①高校生(一般98名/実行委員(以下ECと記述)21名)
②海外からの学生(台湾4名、韓国6名、留学生4名)
- 主催
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
※高校生の構成メンバーについては、裏表紙に記載。
- 構成団体
熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、
税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト、
一般社団法人ドリーム・ラボ
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
- 協力団体
独立行政法人国際協力機構(JICA)九州国際センター
- 後援
熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社
日本ボランティア学習協会

Schedule

8月11日(土) <1日目>

- 9:00 一般参加者受付(国際交流会館公開空地)
- 9:40 出発
- 12:10 到着
- 12:15 昼食
- 13:00 オリエンテーション @講堂
- 13:30 開会式 @講堂
- 13:50 基調講演(興梠 寛氏 昭和女子大学教授)
- 14:30 オープニングセッション(EC演劇)
- 15:10 休憩
- 15:30 分科会活動①
- 第1分科会 児童労働 -Child labor- @中研修室
- 第2分科会 情報リテラシー @第1研修室
- 第3分科会 自己表現 @第5研修室
- 第4分科会 社会福祉(障がい) @オリエンテーション・大研修室
- 第5分科会 平和 @第3研修室
- 第6分科会 多文化共生 @大研修室
- 第7分科会 減災 @第7研修室
- 17:15 終了
- 17:30 タベの集い
- 18:00 夕食
- 19:00 全体交流会(キャンプファイヤー) @草原ファイヤー場
- 20:30 終了・入浴
- 22:00 就寝準備
- 22:30 就寝

8月12日(日) <2日目>

- 6:00 起床
- 6:20 クリーンタイム(各部屋の清掃)
- 6:45 朝の集い
- 7:30 朝食
- 9:00 分科会活動②
- 12:00 昼食
- 13:00 分科会活動③
- 17:00 終了
- 17:30 タベの集い
- 18:00 夕食
- 19:00 未来職道(出展団体11団体) @大研修室
- 21:00 終了・入浴
- 22:00 就寝準備
- 22:30 就寝

8月13日(月) <3日目>

- 6:00 起床
- 6:20 クリーンタイム(各部屋の清掃)
- 6:45 朝の集い
- 7:00 朝食
- 8:40 退出チェック
- 8:45 分科会全体報告会 @大研修室
- 10:30 報告会終了
- 10:45 クロージングミニ講演会
- 11:10 閉会式
- 11:30 昼食
- 13:00 出発
- 13:15 阿蘇神社到着・散策
- 14:15 出発
- 16:00 国際交流会館到着・解散

「未来職道」協力者(敬称略)

- NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと
竹村 朋子
- FSやつしろ
大住 葉子
- 熊本ユネスコ協会
橋村 隆介
- 青年海外協力隊(JICAデスク熊本)
阿南 栄子
- Free The Children Japan 熊本
岩坂 省吾
- KLCC(地雷廃絶と支援者の会・熊本)
田尻 俊次
- NPO法人 CANPUS(WHITE LABEL)
山本 真実
- 日本ワーキングホリデー協会
藤田 逸郎
- 日本ボランティア学習協会
興梠 寛、西尾 雄志
- きょうされん
福島 貴志
- TEDx Kumamoto
松岡 祥仁
- ポラキャン/Smile Station
事務局・EC
- アドバイザー
興梠 寛(昭和女子大学教授)
西尾 雄志(近畿大学総合社会学部准教授)
山南 純平(劇団夢棧敷)
- 事務局
八木 浩光、勝谷 知美、白石 昌隆、田上 美奈(KIF)

「開会式・基調講演・オープニングセッション」

報告者：宮崎 翔、坂本 達哉（文徳高校2年）

第13回国際ボランティアワークキャンプ in ASO実行委員(EC)の足田さんの開会宣言で始まりました。今年も県内の高校生や留学生など多くの参加がありました。まだ参加者みんな打ち解けていない中での開会式、みんなとても緊張しているように見えました。

また、オープニングムービーでは、ボラキャンのこれまでの活動が紹介されたので歴史を知ることが出来、これからはじまるボラキャンがどのようなものなのか参加者のみなさん興味をもちながらしっかりと見ていました。そして、実行委員長の坂野君の挨拶では、これからはじまるんだと実感することが出来たと思いますし、これまで準備してきたECの思いやこの3日間を参加者にどう過ごしてもらいたいかを伝えることが出来たのではないかと思います。

開会式の後に昭和女子大学の興梠先生による基調講演とワークショップが行われました。

基調講演では、まず「ボランティアとは何か」の説明があり、「ボランティアの目指す社会」を学び「ボランティアの美しさ」を知ることが出来ました。ECも参加者もボランティアについて興味を持って聞くことが出来たかと思えます、また、ワークショップでは、動いて互いに自己紹介し交流することで、緊張も解け、これから取り組むワークキャンプへの意欲向上に繋がったのではないかと思います。初めは緊張していた参加者でしたがワークショップ

が終わる頃には緊張が解け、参加者同士笑顔があふれていました。

参加者やECにとってこれから始まるんだ!という思いを持たせるとても良い開会式・基調講演になったと思います。

また、今回のボランティアワークキャンプでは、新たな取組みとして3日間の過ごし方について紹介する「演劇ワーク」を行いました。

ECが積極性、態度、交流、忖度の4つのテーマに別れて劇を行い、劇をした後に、悪かった点や改善点をテーマとボラキャンでの活動を結びつけ考えてもらい、積極的に活動してもらるように工夫しました。積極的に手を挙げ発言している参加者もいました。

1回目の劇のときは参加者の緊張がほどけてないような気がしましたがだんだん続けていくうちにほぐれているのが感じられました。ECと参加者の距離が縮まったようにも思えました。

この劇を通してこれからの3日間をどう過ごせばいいかを参加者に考えてもらい意識してもらうことができたと思います。このワークをおこなったことで素晴らしいボラキャンにする第一歩を踏み出せたと感じました。次回からも継続し取り入れてほしいと思いました。



第1分科会 参加者19名

「児童労働 -Child labor-」

報告者：増田 京悟（宇土高校2年）

第一分科会では、児童労働をテーマに、現在世界中で問題視されている貧困や、それを取り巻く様々な社会問題について理解を深めました。1日目はアイスブレイキングとして「山手線ゲーム」、アクティビティとして「少年の冒険」を行いました。

山手線ゲームは、一般的に行われている名前を覚える形式に加え、自分の名前の頭文字から始まる形容詞、たとえば京悟の頭文字Kを取ってkindなどを使って自己紹介を行い、普段と少し違うユニークなルールだったので、みんな初対面ながらも楽しんでくれました。「少年の冒険」は小説「アルケミスト」をモチーフにしたゲームで、1人ひとつずつ水の注がれたスプーンを持ち、それをこぼさないように施設の廊下に隠された5つのキーワードを探すアクティビティです。さらに、キーワードが隠されているのは、自動販売機の側面や足元など、進んだ後に振り向いたり、しゃがんだりして視点を変えないと見つけられないところばかりで、手元のスプーンの水をこぼさないようにするにはかなりの集中力が必要です。参加者達もかなり苦労しながら進んでおり、このアクティビティを通して、物事を考える時に必要な、1つの物事に集中しすぎず「多角的な視点」を持つことこの重要性を学んでもらいました。

2日目はアイスブレイキングで「King Elephant」という、ジェスチャーと手拍子を使ったゲームで目と頭を覚えました。次に「フォトランゲージ」「児童労働シュミ

レーションカードゲーム」をしました。このカードゲームはFree The Children Japanで利用されている教材で、実際に起きた児童労働の状況や職種が書かれたカードがあり、それに沿って進めることで子供たちの人生を疑似体験するというものです。このゲームで児童労働についてより想像しやすくする為に、フォトランゲージで実際の児童労働の現場、置かれている状況、セラピーの写真を見てディスカッションし、理解を深め、その悲惨な人生に言葉を失う人もいました。

最後に、2日間を通して考えたことを、「貧困」をテーマにウェビングしてさらに深め、それを取り巻く問題についてそれぞれ分類して、簡単には解決することが難しい事を理解した上で、自分たちならどんな行動を起こせるか、「gift+issues=change」としてまとめました。この分科会活動を通して、「多角的な視点」を持つことの大切さに気づいてもらえたこと、また今回の活動を機に行動を起こした人もいて、充実した活動ができたと思います。



私達第2分科会は、現代社会においては当たり前になっている「インターネット」に焦点を置き、もう一度「情報とは何か」「どのように情報と向き合っていくべきか」を高校生なりに考えるという趣旨の分科会を行いました。一般に情報リテラシーとは、何かを伝えるために用いる様々な形の信号、つまり「情報」を適切かつ安全に使う能力・活用力・応用力のことだと説明されています。簡単に言うと正しく情報を使う力のことです。私たちは分科会を通してこの情報リテラシーの大切さを参加者に理解してほしいと願い様々な活動を準備しました。

3日間の中での分科会活動において1日目には熊本地震の際にツイッターに投稿された嘘の情報(デマツイート)を題材にして、情報を操作することがインターネット上で起こりうることを確認しました。また交流ゲームを通じて参加者の緊張がほぐれることが出来たようです。

2日目は初めに情報リテラシーを考える上で必要になってくるキーワードを全員で学びました。その後情報化社会がどのように進展し、インターネットが発展していったのはなぜなのかということを実行委員のプレゼンをもとに考えていきました。昼食を挟

んで午後には情報リテラシーを高めるためにはどのようなことを意識すべきかを話し合い、この現代社会において私たちが上手に情報と向き合っていくためにどのような姿勢が必要となってくるのかを分科会のまとめとして話し合いました。

3日目は全体報告会の中で参加者に対し自分なりの言葉で発表しました。参加者の高校生は、はじめは難しい考えという印象だったようですが、分科会が進むにつれて表情も柔らかくなり自分なりの考えを持つことが出来るようになっていたことを話してくれました。

必要不可欠ともいえるインターネットをどのように用いるべきか、それはもう国際的な問題であるという認識があまりないように感じます。今後起きる可能性のある問題を未然に防ぐためには、情報リテラシーをさらに多くの人に知ってもらい、そして考えてもらいたいと思います。

この分科会を通して実行委員である私達も様々なことを学び成長することが出来たと思っています。活発な分科会活動を一緒に作り上げてくれた参加者の皆さん、本当にありがとうございました。



私たち第3分科会では「自己表現」をテーマにして3日間の活動を行いました。

活動としては、1日目には、アイスブレイクをしました。やはり始めは緊張もあってか、あまり参加者同士で交流は出来ていませんでしたがアイスブレイクをすることで、緊張も解け参加者同士仲良くなってきました。アイスブレイクの後は自己表現について考え、自分が自己表現をできてないと思う場面を書き出しました。そして、参加者が出してくれた意見を、初対面、学校、世界、人間、年齢の5つのグループに分け、2日目に、1日目で分けた5つのグループについて自己表現できるようにするためにどうすべきかを考えました。その後、実際に自己表現をしやすいかを知るために2つの異なる方法で議論しました。まず初めはテーマを「バレンタインは必要か?」として、口だけで議論しました。次にテーマを「制服は必要か?」として、自分の意見を紙に書かせ

て議論しました。その後に参加者にどちらの方法が意見を言いやすかったかを問いかけました。やはりほぼ全ての人が2つの方が自己表現しやすいと答えていました。

理由としては、口で話すのは恥ずかしいが、紙に書くと自分の意見を言えたという意見があったので、EC側が目的としていた自己表現の仕方は沢山あることを知ってもらえたと思います。

また、自己表現が出来てない場面である選挙についても解決策を出し合いました。少し難しい議題ではありましたが、参加者同士で意見を出し合い解決策を見出すことが出来たと思います。最後に全体報告会の原稿作りをしました。参加者のみなさんが互いに意見を出し合うことが出来ていたので、問題なく予定より早く終わらせることが出来ました。

この3日間の活動はECや参加者にとってとても良い経験になりました。



第4分科会 参加者15名

「社会福祉(障がい)」

報告者：濱野 匠 (文徳高校2年)

第4分科会では、アイスブレイキングとしてまず山手線ゲームを行いました。このゲームを行ったことで、参加者同士で楽しくお互いの名前を覚えられたように思えました。次に1つの障がいを体験してもらうためにブラインドサッカーを行いました。サッカーの中では目隠しをしている人に指示を出す人がボールの位置を教えていたりしていましたが中々伝わらず苦戦している様子でした。サッカーの後、参加者にサッカーの感想を聞いてみると目隠しをしていた人からは目の前が分からなくて怖いという意見や指示は細かく出さないと分かりにくいという意見が出ました。指示を出していた人からは位置を伝える為には細かい位置を教えなければならないということに気付けたという意見が出ました。この体験を通して障がいについての理解が少し深まったように感じました。

次にECが介護施設で「統合失調症」や「パニック障がい」等障がいを持った方から聞いた、障がいを持ってから困った事等について発表しました。発表後感想を聞いてみると、「周りの理解や知識を持つことでのサポートが必要」「障がい者が働きや

すい環境を作れば良いのではないのか」という意見がでました。

2日目は三つのグループに分かれてこの分科会のテーマである障がいを持った方もそうでない方も共存できる社会の実現には何が必要なのかを話し合いました。この話し合いでは参加者はとても積極的に話し合いを進め意見を出してくれていたもので障がいについて一日目よりも関心を持ってもらえたように思えました。午後にはきょうされん熊本支部の支部長である福島さんが障がいについての話を下り様々な障害について聞くことができました。全員福島さんの話を最後までしっかりと聞いていたので障がいに関する知識が深まったのではないのでしょうか。

将来、この分科会に参加していただいた人の中から障がいを持った方もそうでない方も共存できる社会を実現してくれる人がでたら良いなと思いました。



第5分科会 参加者18名

「平和」

報告者：二宮 沙紀 (熊本高校2年)

第5分科会では「平和な世界」を参加者皆でつくっていくために「周りにある身近な平和」について2つの視点を基に考えてもらいました。

1つ目の視点は「人為災害」です。

人為災害の中でも今回は地雷を取り上げました。世界中に無差別に被害を被っている人がいて、兵士の戦う気力を失わせる恐ろしい兵器であることといった現状と問題点を説明した後、自分達に出来ることをグループになって話し合いました。

2つ目の視点は「LGBTQ」です。

「LGBTQ」とは同性愛者であったり身体上の性差に違和感を持った人といった性的少数派の中の代表的な頭文字「レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、ジェンダー

クィア」を取ったものです。まず、このような人達が心ない言葉で傷つけられていたり生活の中で本音が言えない現状を伝えました。次に「友達が自分にLGBTQであることを話してきたら…」という題で私達の日常の体験を交えながら意見交換をしました。多面的な視点から考えが出たり、時には本当にそう言えるのか批判的に問題を見つめ直すことでより議題の深みが増していき、有意義な時間となりました。

また、一人一人が自分の生活や友人、家族に対する接し方を見直すきっかけが出来て希望をもち、主体的に行動していく大切さを学べた分科会となりました。



私たち第6分科会「多文化共生」では、グローバル化が進む今の社会で生きていく中、外国にルーツを持つ人々に対する固定概念や文化の違いについてECが実際経験したことを基にして3日目話し合いました。

1日目は、みんなが「バーンガ」をしました。バーンガは無言で行うカードゲームで、グループでルールが違います。グループで勝ったひとはちがうグループに移動します。話さないことは国ごとに言葉が違って言葉が通じないことを表します。またルールが違うのは、国によって文化が違うことを理解するためです。次は、「多文化共生」のことを考えてキーワードを出してもらいました。

2日目は、最初にアイスブレイキングとして韓国語と中国語でフルーツバスケットをしてもらいました。次は、外国と日本の違いを知ってもらうためにクイズをしました。その後、外国から来た人たちが経験したことを参加者も分かるように英語で授業をしました。そして、実際外国から来ている人が日本に来て大変だったことを話して、感想をみんなで発表しました。次は、ハーフのイ

メージをキーワードに出してもらいました。その後、実際ハーフの人々が経験していることをみんなで劇をして、発表しました。そして、参加者に多文化共生のことを説明しました。その説明をもとにこれからどうしていくかを一人一人紙に書いてもらいました。「外国にルーツを持つ人に偏見を持たないようにする」等、色々な意見が出ました。

3日目は、2日間の活動をまとめたポスターを違う分科会に発表してもらいました。参加者みんなが2日間で自分が思ったことを話せて良かったです。

分科会を準備しながら、前日まで準備ができなくて不安がいっぱいだったけれども、色々な人々がサポートしていただき本番はうまくいったと思います。まだ参加者と仲良くなって良かったと思います。今回のテーマのように色んなつながりが出来て私にとって一生忘れられない思い出になりました。サポートして下さった皆さんありがとうございます。



第7分科会のテーマは「減災」。災害が起こった時に被害を少なくするという考えの下、今の私達に何が出来るかを考えました。その中で、災害時の外国人の状況に目を向け私達に出来る外国人の為に「減災」について話し合いました。

1日目はアイスブレイクで実行委員が参加者の背中に動物の絵を貼りその特徴を英語で言い合い、当てながら同じ絵柄同士で班を作りました。ここでは、参加者の皆が積極的に交流してくれました。次に熊本地震の詳細を確認した後私達が事前に外国人は何に困ったのかが分かるよう外国人留学生のルイスさんに話を聞き、そのルイスさんが熊本地震が起こった際にとった行動や、何に困ったのかを事前資料を用いて確認をしました。それを基に何故そうなったのか、どうあったら良かったのかを、班ごとに付箋に書き出してもらいホワイトボードで似たような分類に分けてもらいました。ここでは、全員での話ではなかなか自分の意見を言えない参加者もいて、どうしたら皆で話し合いができるのかが難しかったです。

2日目は、アイスブレイクの「何でもバスケット」といって、フルーツバスケットのフルーツに限らず、何のお題でもOKの「何でもバスケット」を行いました。負けた人に、名前や趣味、特徴などを質

問すると、場が和んで楽しく2日目をスタートさせる事が出来ました。そして、カタストロフォイというゲームを行い、災害時に言葉が分からないとどういう気持ちになるのか、何があると良かったのか考えました。次にオブザーバーの勝谷さんに「やさしい日本語」の作り方を学び実際に作りました。この時には、参加者は下の名前呼び合い和気藹々とした雰囲気でした。最後に1日目に出してもらった意見を基に実行委員が作った「私たちにできること」に関する9つのアイデアを、班で優先度が高い順にダイヤモンド型にしてまとめました。まとめとして、「ストック情報とフロー情報」について、「言葉が通じない事で起こる格差や誤解」について、「意識するだけで変わってくる事」について、外国人を孤立させないつながりの大切さを理解して分科会を閉じました。

第7分科会の留学生は1人だけでしたが、皆が積極的に交流してくれたお陰で外国人の目線や意見を沢山話し合いの中に取り入れる事が出来ました。この2日間は私達にも参加者にも忘れられない2日間になったと思います。話し合いを重ねた分科会がこのように実現してとても嬉しかったです。日常生活の中で少しでも思い出して貰えるといいなと思います。



「全体交流会」

報告者：下城 美結（熊本信愛女学院高校2年）

日が暮れ始めた頃に、外の広場に集まり全体交流会を、スタートしました。

全体交流会は各分科会をはじめとして徐々に参加者全員がつながることを目的として行いました。ゲームを始める前に各分科会ごとに分かれて円陣を組み、最後に全員で踊る予定のマムマムのダンスを練習しました。ゲームが始まる前から盛り上がり、いい雰囲気のままゲームを始めることができました。

まず、初めに各分科会対抗でジェスチャーゲームを行いました。「サッカー」「化粧」「本」の3つのお題を出しました。各分科会の最後の人がそれぞれの答えを大きな声で言い終えた後に答え発表という形で行いました。特に「本」が難しく、いろいろな答えがでていました。ジェスチャーゲームでは言葉を使わないので留学生の方々も楽しんでくれたと思います。行われている途中で日が暮れて、見えづらくなってしまいましたが、ECや参加者の携帯のライトのおかげでスムーズに進めることができました。次にボール回しを行いました。ボール回しは全員で輪になりBGMが流れている間、3つのボールをまわしていき、BGMが止まったときにボールを持っている人に質問をしていくゲームです。ボールを回す向きが逆だったりしましたが、それらも踏まえて全員が楽しむことが出来ました。質問の中で歌が得意と答えてくれた

人がその場で歌い、周りは携帯のライトをつけて盛り上がり、全体が一体感に包まれました。このゲームで参加者全員が仲良くなる「きっかけ」を作ることができよかったです。

その後、副委員長扮する女神様を中心にキャンプファイヤーの点火式を行いました。火がなかなか燃え移らなかつたり、予期せぬハプニングも多々ありましたが、全員が燃え上がる炎に感激し少しの間、広場が静寂に包まれました。最後に炎を囲んで2重の輪になりマムマムを踊りました。初めに練習をしていたことと、それぞれの仲が深まっていたこともあり、全体交流会の中で1番盛り上がる時間となりました。マムマムでは逆回りや反対を向くなどの工夫を加えたことで、より楽しく踊ることができました。

全体を通して、参加者の顔が初めよりも笑顔で周りの人と楽しんでくれている姿を見てとても嬉しく感じました。私は全体交流会担当として参加者が楽しんで、そして「つながる」ことができるのか不安な気持ちもありましたが、成功という形で終わって本当に良かったです。反省点の1つとしては担当のECがあまり全体を見ることができていなかった事があげられますが、この全体交流会が参加者の皆さんにとっていい思い出として残っていたらとても嬉しいです。



「未来職道」

報告者：東田 亜弓（宇土高校2年）

「未来職道」は2日目の夜に行われました。未来職道では、国際協力や多文化共生・地域活動など様々な分野で活動されている方々の話を自由に聞いて回ることができます。

今回は、日本ボランティア学習協会、NPO法人CANPUS、KLCC(地雷廃絶と被害者支援の会・熊本)、熊本ユネスコ協会、NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと、FSやつしろ海外にルーツを持つ子どもたちの会、きょうされん熊本支部、JICAデスク熊本、一般社団法人日本ワーキングホリデー協会、特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ(FTCJ熊本)、TEDxKumamoto、Smile Station、そしてボラキャンECの全13団体にお話をいただきました。

まずは、各団体からの紹介・説明があり、その後、自分の興味のあるブースに自由に移動して話を聞きました。きょうされん・TEDxKumamotoブースでは、ただ話を聞くだけでなく、実際にボランティアを募っていました。特に、TEDxKumamotoブースで

は、その場でボランティアスタッフの申し込みをすることができたので積極的に参加する参加者を多く見受けられました。日本ワーキングホリデーブースでは、実際にワーキングホリデー制度を使って海外へ行かれた方の話を聞いて、留学との違いや魅力を知り、興味を持つ参加者が多く、将来の選択肢も増えたのではないかと思います。また、他のブースを回る中で、参加者からは「普段聞けないような話を聞けて楽しかった。」「もっとほかの団体の話も聞きたかった。」などの声を聞くことができました。この未来職道を通して、私はさらに視野が広がり、ボランティア活動や社会貢献に対する興味が深まりました。そして、未来職道で学んだこと、得たことを自分の将来や日常生活を送るうえで役立て、つなげていければと思います。

今回、この未来職道を開催するにあたって、お忙しい中を下さった各団体の皆様、そして事務局の皆様、本当にありがとうございました。



「全体報告会」

報告者：石炭 希良里（宇土高校 2年）

全体報告書は3日目の午前中に行われました。そこでは、各分科会で参加者の方が広用紙2枚に2日間の活動をまとめ、7つのブースに分かれて、発表4分・質疑応答1分で広用紙使ってポスター発表を行いました。全員が全ての分科会のブースを回れるように事前に各分科会で7つの班を決めて発表・質疑応答の後1分で班ごとに時計回りに回りました。広用紙は、クイズ形式にしてあったりイラストを用いていたり、実際に分科会で作った物を提示してとても見応えがありました。どの分科会も前日に話し合い、メモしたりとしてスラスラと発表出来ていました。留学生と日本の高校生とが組んでペアを作り、工夫して発表している所も見られました。質疑応答に入ると静かになってしまう面もあり、実行委員（EC）が率先して質問を行い他の参加者も質問しやすい雰囲気づくりに努めたのですが、場合によっては実行委員だけが質問をするという状況もあり、実行委員が毎回質問する事で参加者同士の質疑応答が出来なかったという反省がありました。そこは、質問をするというフォローだけに限らず

もっと色々な方法を考えると良いと思いました。また、声が聞こえなかったり通訳が間に合わないなどの反省があったので、椅子の体型を工夫したり、発表者をお願いとして、ゆっくり話してもらうなどを検討すると今後もっと良い報告会になるのではないかと思います。

閉会式の前にアンケートを書いてもらいましたがタイミングとしてはとても良かったと思います。ですが、実行委員同士の確認が上手くできておらず、書いてもらったアンケートの回収がバラバラになってしまいました。次はそこまで細かく確認すると良いと思います。今回の全体報告会は、若干の反省はあるものの、参加者の皆さんが自分なりに各分科会について考えてまとめた広用紙を自分の言葉で説明する事で、他の参加者の皆さんも真剣にきいていて雰囲気はとても良かったと思います。私も、自分の分科会の参加者の皆さんが一生懸命発表してくれて嬉しかったです。



「閉会式」

報告者：王 柏淋（東稜高校 1年）

3日間の最後、全体報告会が終わり閉会式は大研修室で行われました。最初はクロージングミニ講演会ということで西尾先生（近畿大学准教授）によって行われ、とても貴重なお話を聞くことができました。そして、司会の進行によりECの皆と参加者で、ボラキャンの歌「キセキの旅」を合唱しました。全員で歌えるか課題としてありましたが、練習の時より本番ではECみんな声のでていたことで、参加者も一緒になって歌ってくれ、音楽だけが流れることなく想定していたより盛り上がりを感じました。その後フラッシュモブを行うということで、ECのダンスリーダーが「YMCA」を踊り始め一生懸命雰囲気を盛り上げてくれたので、少しずつ参加者も一緒に踊りはじめ、他の参加者と参加者の周りにいたECも手拍子をはじめ段々と盛り上がってきたので会場全体が一体感になった気がしました。外国人参加者も手拍子をして下さって、国関係なく、絆で繋がった瞬間でした。そして、その流れから写真撮影をしました。一生思い出となる記念の写真を撮ることができたのでとても嬉しかったです。最後は、閉会宣言をもって大会プログラムを終了したのですが、閉会式が終わったと同時に、3日間のすべての

日程も終了したことを実感した瞬間、とともに名残惜しくなりました。最初に戻りボラキャンを皆ではじめたい気持ちになりました。こうして、明るく、楽しい雰囲気で行うことができたのは、やはり支えてくださったオブザーバーの方々や大学生ボランティアの皆さんをはじめとする事務局スタッフの皆さん、そして参加者のみんなのおかげです。ありがとうございました。



「お礼のメッセージ」

実行委員長：坂野 滉太（熊本高校2年）

私は第12回ボランティアワークキャンプに引き続き、2度目の実行委員として参加しました。今大会は前回の参加者が実行委員の中心となり、企画・運営を行いました。そこで決まったテーマが「可能性～創ろうみんなの未来～」。このテーマにその文面以上に深い重要な意味を含んでいると私は考えています。それは高校生が自分たちの力を信じようという意思が見えることです。近年の教育のキーワードのひとつとして「自己肯定感」というものが挙げられると思います。理由は様々ですが、子どもが自身の可能性を閉ざしてしまっている現状があるということです。“高校生には世の中は変えることなどできない”これを当然の

事実として受け入れることはあまりに残念ですし、私はこれが偽であると信じています。「今」を変えることは確かに難しいことかもしれませんが。しかし未来を創ることはできるはずですよ。今回第13回国際ボランティアワークキャンプを開催することが出来たのはある意味未だ弱い私たちを信じ、後押ししてくださった国際交流振興事業団のスタッフはじめ様々な形でかかわってくれた大人の方々、そして参加して下さった高校生・留学生の皆さんのおかげです。実行委員長として、1人の高校生として本当に感謝しています。ありがとうございました。

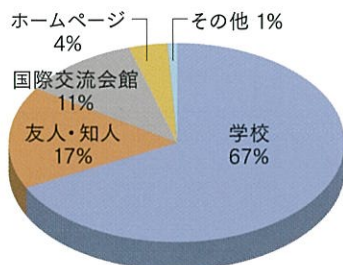


第13回 国際ボランティアワークキャンプ in ASO アンケート

以下の質問に対してあてはまるものに○をつけ、ひとことコメントをお願いします。

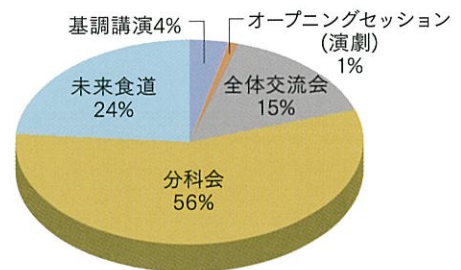
Q1 ボラキャンをどこで知りましたか？

1. 学校 2. 友人・知人 3. 国際交流会館
4. ホームページ 5. その他



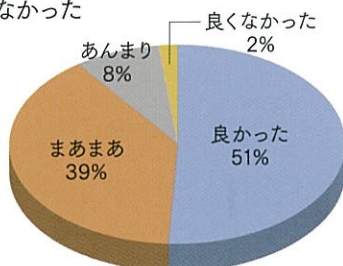
Q2 一番印象に残った活動は何ですか？

1. 基調講演 2. オープニングセッション(演劇)
3. 全体交流会 4. 分科会 5. 未来食道



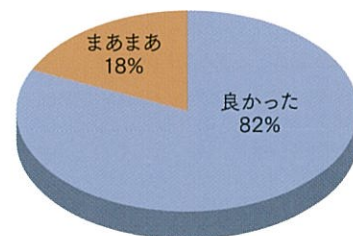
Q3 基調講演ワークショップはどうでしたか？

- ・良かった ・まあまあ ・あんまり
・良くなかった



Q4 オープニングセッション(演劇)はどうでしたか？

- ・良かった ・まあまあ ・良くなかった



※主な理由。

- ・話が面白かった
- ・動くのが楽しかった
- ・意見の交換ができた
- ・ボランティアについての知識が深まった
- ・体験型だったから
- ・ためになる話だった
- ・具体例があってわかりやすかった
- ・話の内容が難しかった

※主な理由。

- ・次からの活動に活かされた
- ・分かりやすかった
- ・面白かった
- ・みんなの考えが伝わってきた
- ・演技が上手だった
- ・ワークキャンプの雰囲気を知ることができた
- ・演劇があったため、発表しやすい雰囲気だった
- ・声が聞き取りにくかった

Q5 分科会はどうでしたか？

第一分科会

- ・大学生になったらボランティアをしたいと思った
- ・写真の生々しさがぐっときた
- ・フォトランゲージが特に印象に残った
- ・児童労働の現状が分かった
- ・普段考えないことを考えることができた

第二分科会

- ・説明が分かりやすかった
- ・情報リテラシーの大切さがわかった
- ・考えてスマホやネットを使おうと思った

第三分科会

- ・楽しかった
- ・仲良くなれた
- ・自己表現について考える事ができた
- ・他の人の考え方が聞けてよかった
- ・韓国の方と話げてよかった
- ・話し合いの時間が多くてよかった
- ・意見がい言えるようになった

第四分科会

- ・専門家を呼んで詳しく学べた
- ・知識を増やせた
- ・ゲームが楽しかった
- ・障がいについて詳しく学べた
- ・皆で意見を出し合い、課題解決ができた
- ・共生社会について考えるいい機会だった
- ・ECの方が頑張っていて元気をもらえた

第五分科会

- ・真剣に考える事ができた
- ・多くの人と仲良くなれた
- ・新しい発見があった
- ・自分の意見をたくさん言えた
- ・コミュニケーションをとるのが楽しかった
- ・今までと違う視点で見ることができた
- ・視野が広がった

第六分科会

- ・多文化共生について深く学ぶ事ができた
- ・偏見が少なくなった
- ・仲良くなれた
- ・ECの方の体験が聞けてよかった
- ・普段では聞けない事を聞けた
- ・充実していた
- ・意見が出しやすい雰囲気だった
- ・ダブルの人たちへの見方を変える事ができた

第七分科会

- ・色々な人と話す事ができた
- ・知らないことが学べた
- ・言葉の壁を感じる事ができた
- ・減災について深く考える事ができた
- ・外国人の意見を知る事ができた
- ・外国人への接し方が分かった
- ・意見が言いやすい楽しい雰囲気だった



Q8 実行委員の対応について

- ・良かった
- ・まあまあ
- ・良くなかった

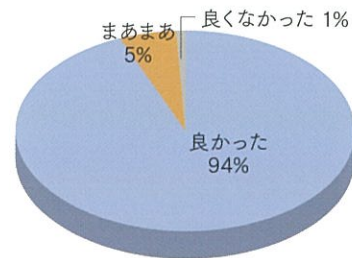


※主な理由。

- ・丁寧に接してくださり、話しやすかった
- ・指示が適切で分かりやすかった
- ・一生懸命だった
- ・助けてくれた
- ・尊敬した
- ・行動力、判断力が優れていた
- ・面白かった
- ・優しくかった
- ・親しみやすかった
- ・笑顔が良かった
- ・ハキハキして聞いて取りやすかった
- ・冷静だった
- ・気さくに話しかけてくれた

Q6 全体交流会はどうでしたか？

- ・良かった
- ・まあまあ
- ・良くなかった

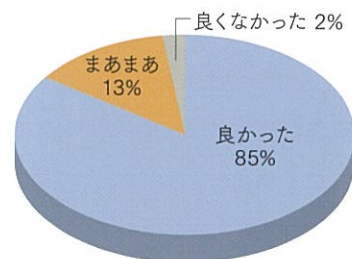


※主な理由。

- ・皆で楽しく活動できた
- ・キャンプファイヤーで仲良くなれた
- ・同世代の発表する力を目の当たりにした
- ・ダンスやゲームが楽しかった
- ・友達ができた
- ・まとめてある紙が工夫されおり見やすく分かりやすかった
- ・外国の片がいたから多文化共生についてよく知れた
- ・内容が充実していた
- ・聞こえづらい部分があった
- ・少し時間が無駄だった

Q7 未来職道はどうでしたか？

- ・良かった
- ・まあまあ
- ・良くなかった

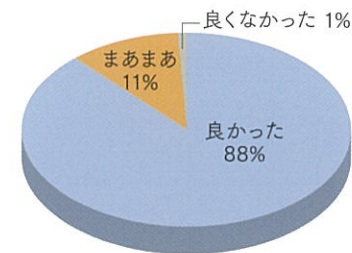


※主な理由。

- ・ワーキングホリデーに行ってみようと思った
- ・ためになった
- ・興味を沸いた
- ・来てよかったと思った
- ・ボランティアにまた参加する機会が増えた
- ・フリーザチルドレンジャパンに興味を持った
- ・留学について知れた
- ・してみたいボランティアが見つかった
- ・少人数で質問がしやすかった
- ・将来のやりたいことに近づけた
- ・ボラキャン後の活動の方針が見えた
- ・時間が短かった
- ・場所が狭かった
- ・もっと多くの場所を聞きたかった

Q9 全体を通して今回のキャンプはどうでしたか？

- ・良かった
- ・まあまあ
- ・良くなかった



※理由をお聞かせください。

- ・様々な発見があった
- ・考えなければいけない問題に触れることができた
- ・貴重な経験ができた
- ・新しい世界に一步踏み出せた
- ・多文化について知れた
- ・一緒にボランティアに参加する友達ができ
- ・色々な意見を持った人たちと討論ができてよかった
- ・自分の今ある環境に感謝をしなければならないと思った
- ・少し退屈だった
- ・施設はあまいきれいではなかったが、良い自然環境だった
- ・国際と書いてあったので英語だと思っていた
- ・スケジュールがぎっしりだった
- ・夜が少しうるさかった
- ・もっと英語が欲しかった

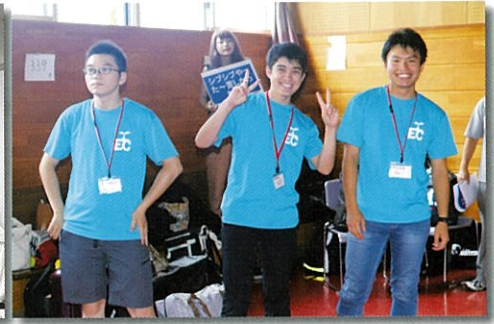
回答数 110 人 (一般参加者・留学生) 回答率 96%



第13回国際ボランティア ワークキャンプ実行委員会

高校生実行委員会メンバー

《実行委員長》	坂野 滉太	熊本高等学校
《副委員長》	平山 恩愛	鹿本高等学校
	久我 広太郎	熊本高等学校
	末次 宏光	熊本高等学校
	二宮 沙紀	熊本高等学校
	東 奏代香	真和高等学校
	花岡 慶	真和高等学校
	坂本 達哉	文徳高等学校
	宮崎 翔	文徳高等学校
	濱野 匠	文徳高等学校
	末次 浩祐	文徳高等学校
	王 柏元	必由館高等学校
	海崎 海生	必由館高等学校
	増田 京悟	宇土高等学校
	石炭 希良里	宇土高等学校
	東田 亜弓	宇土高等学校
	疋田 芽花	九州学院高等学校
	溝上 遥日	九州学院高等学校
	ハーリントン アレクサンダー	菊池高等学校
	下城 美結	信愛高等学校
	王 柏淋	東稜高等学校



■ 構成団体 / 熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト
一般社団法人ドリーム・ラボ、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

■ 協力団体 / 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 九州国際センター

■ 後援 / 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、日本ボランティア学習協会

平成30年度 子どもゆめ基金助成事業

National Institute For Youth Education
NIFYE 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

事務局

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町4番18号 熊本市国際交流会館

TEL : 096-359-2121